

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器 2021/4/1 ~ 2021/9/30)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	IDWR. 22:51(2020)3-3	2020年12月23日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦におけるE型肝炎症例報告は以下のとおりであった。感染地域(感染源):北海道1例(豚レバー)、茨城県1例(不明)、神奈川県1例(不明)、広島県1例(牛レバー)、福岡県1例(不明)。
2	E型肝炎	IDWR. 23:17-18(2021)6-6	2021年5月7日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦における2020年第17週から2021年第16週までに診断されたものの報告が遅れたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):東京都1例(豚ホルモン)。また、2021年5月12日集計分では、本邦におけるE型肝炎症例報告は以下の通りであった。感染地域(感染源):宮城県1例(牛肉)、千葉県1例(豚肉)、東京都1例(不明)、新潟県1例(豚肉)、国内・国外不明2例(焼肉1例、不明1例)。
3	HIV感染	IASR. 41(2020)175-190	本報告はHIV及びAIDSに関する特集記事である。本邦における血液凝固因子製剤による感染者は、累積で1440人(死亡者720人)である。また、日本国籍男性の静注薬物使用による感染症例が2001年以降ほぼ毎年1~5件報告されており、2019年は2件であった。
4	H1N1インフルエンザ	Outbreak NewsToday.http://outbreaknewstoday.com/canada-h3n2-variant-influenza-case-reported-in-manitoba-62044/	マニトバ州南部の異なる地域において、変異型インフルエンザウイルスの2症例が発見された。1例はヒトインフルエンザA(H1N2)変異型ウイルスの症例、もう1例はヒトインフルエンザA(H1N1)変異型ウイルスの症例である。これらは、国際保健規則に従ってカナダ公衆衛生庁に報告された。
5	H1N1インフルエンザ	Outbreak NewsToday.http://outbreaknewstoday.com/h1n2v-influenza-case-reported-in-taiwan-84570/	台湾疾病管理センターは、中央地域に住む5歳の少女におけるインフルエンザH1N2変異型ウイルス感染症例を報告した。この患者は軽度の症状(発熱、鼻水、咳)を呈したが、入院には至らなかった。感染源の調査により、患者は家畜の飼育に従事していたことが明らかとなった。
6	H1N1インフルエンザ	Outbreak NewsToday.http://outbreaknewstoday.com/iowa-reports-influenza-ah1n1-variant-virus-infection-5th-novel-influenza-a-virus-this-season-25322/	米国疾病予防管理センター(CDC)のインフルエンザ調査レポート(FluView)における2021年インフルエンザシーズン第21週(2021年5月29日まで)のレポート。アイオワ州において、インフルエンザA(H1N1)変異株(A(H1N1)v)ウイルス感染者1例が報告された。この患者はブタのいる農場に勤務している。この患者に関連したヒトからヒトへのインフルエンザA(H1N1)vウイルス感染は確認されていない。本件は、2021年発生のも米国で特定された2例目のA(H1N1)vウイルス感染である。
7	H1N1インフルエンザ	Outbreak NewsToday.http://outbreaknewstoday.com/ohio-reports-1st-influenza-ah1n2v-virus-case-in-the-us-this-year-83383/	オハイオ州において、インフルエンザA(H1N2)変異型(A(H1N2)v)ウイルス感染者1例が報告された。患者はブタがいる農場に居住していた。この患者に関連したヒトからヒトへのインフルエンザA(H1N2)vウイルスの感染は確認されていない。本件は、2021年に米国で発生した最初のインフルエンザA(H1N2)vウイルスである。

ID	感染症(PT)	出典	概要
8	H1N1インフルエンザ	Outbreak News Today. <a href="http://outbreaknewstoday.com/swine-flu-case-reported-in-north-carolina-59575/">http://outbreaknewstoday.com/swine-flu-case-reported-in-north-carolina-59575/</a>	ノースカロライナ州において、新型インフルエンザAウイルス感染者1例が報告された。この患者は、2020年にインフルエンザA(H1N1)変異(A(H1N1)v)ウイルスに感染していた。感染源に関する調査で、この患者がブタがいる場所で働いており、ブタに接触していたことが明らかになった。この変異ウイルス感染は2021年まで検出されなかったが、2020年(2020年～21年シーズン)に米国で採取された検体から特定された初めてのインフルエンザA(H1N1)vウイルスである。
9	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20210419.8312632	CDCは、ウィスコンシン州の子供の新型インフルエンザA変異型ウイルス感染症例を報告した。CDCのFluViewによると、患者は入院せずに、病気から完全に回復した。感染源の調査により、患者はブタと直接接触过していたことが明らかになった。
10	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20210504.8340504	マニトバ州南部の異なる地域において、変異型インフルエンザウイルスの2症例が発見された。1例はヒトインフルエンザA(H1N2)変異型ウイルスの症例、もう1例はヒトインフルエンザA(H1N1)変異型ウイルスの症例である。これらは、国際保健規則に従ってカナダ公衆衛生庁に報告された。
11	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20210614.8443658	世界保健機関は、ドイツにおけるヒトでのインフルエンザA(H1N1)変異型ウイルス感染症例を報告した。感染したのは、2021年4月18日にインフルエンザ様の病気を発症したメクレンブルク=フォアポンメルン州の17歳の少年である。この患者は、発病の数日前まで養農場で働いていた。呼吸器症状発症後、新型コロナウイルス感染が疑われた為、患者は隔離措置が施された。その農場の他の労働者又は患者の家族に症状はみられず、患者は回復した。さらなるウイルス学的調査等が進行中である。
12	H1N1インフルエンザ	WHOホームページ. <a href="https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2021-DON306">https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2021-DON306</a>	2020年12月15日時点、ブラジルのMinistry of Healthは、2020年2例目のインフルエンザA(H1N2)変異ウイルスのヒト感染例を報告した。本症例はParana state, Irati municipalityの豚肉処理場を兼ねた農場に住んでいる4歳の女児であった。この症例はブラジル、Parana stateにおいて報告された3例目のインフルエンザA(H1N2)変異ウイルスのヒト感染症例である。
13	H1N1インフルエンザ	WHOホームページ. <a href="https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2021-DON309">https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2021-DON309</a>	2021年1月23日時点で、ウィスコンシン州で新型インフルエンザA/H3N2変異ウイルスのヒト感染例が1例報告された。患者は18歳未満で、ブタがいる農場で生活している。患者は完全に回復している。本症例は、2021年に米国で初めて検出されたインフルエンザA/H3N2変異ウイルス感染症である。
14	H1N1インフルエンザ	WHOホームページ. <a href="https://www.who.int/inf/luenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_09_12_2020.pdf?ua=1">https://www.who.int/inf/luenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_09_12_2020.pdf?ua=1</a>	オランダでは2019年9月に発生した豚インフルエンザA(H1N1)変異ウイルスへのヒト感染例が1例報告された。2019年9月25日にインフルエンザ様疾患を発症した43歳の農家の男性。本症例、別の症状のある農場の作業員、農場の症状のあるブタからサンプルが採取され、本症例とブタから採取したサンプルからインフルエンザAウイルスが検出された。抗原性および遺伝子解析の結果、これらのウイルスはユーラシア鳥類型インフルエンザA(H1N1)豚インフルエンザウイルスであることが明らかになった。本症例から採取したウイルスとブタから採取したサンプルの全ゲノム配列はほぼ同一であった。
15	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 26(2020)143-147	RT-PCRによりインフルエンザA型ウイルスが検出されたオーストラリアの15歳女性における症例及び当該ウイルスのゲノム解析結果に関する報告である。患者は、発症前日に南オーストラリア州の農業ショーで動物と接触していたことが判明しており、ゲノム解析の結果、オーストラリアのブタの間で循環していた2種類のヒト系統のインフルエンザウイルスが2:6で組み換えられたものであることが判明した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
16	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 27(2021)939-943	オランダの養豚農家における人獣共通感染症のユーラシア鳥類型ブタインフルエンザA(H1N1)ウイルスによる感染症例報告。43歳の農家の男性、44歳の男性動物管理者及び肥育されていたブタに、急性呼吸器疾患が認められた。ブタはインフルエンザAウイルスの予防接種を受けていたが、男性2人は、季節性インフルエンザウイルスの予防接種を受けていなかった。農家の男性及びブタから採取されたサンプルからは、インフルエンザAウイルスが確認された。男性動物管理者のサンプルからIAVは確認されなかったが、サンプル採取時期が遅かったことに由来すると推察されている。
17	インフルエンザ	Euro Surveill. 25(2020)42:2001638	ドイツ人の2.5歳の子供において確認された人獣共通感染症のインフルエンザA型ウイルス感染症に関する報告。患者の家族は農場を経営していた。患者は症状発現の3日前にブタとの接触歴があり、インフルエンザの予防接種を受けていなかった。また、3日間にわたってインフルエンザ様症状を呈した。感染源の調査によれば、患者がウイルスに感染する2週間前に、新しいブタの群れが農場へ搬入されており、搬入当時、一部のブタは咳をしていたことから、抗生物質で治療されていたことが明らかになった。当該調査を踏まえると、新しく農場へ搬入されたブタが感染経路である可能性が示唆された。
18	インフルエンザ	International Journal of Infectious Diseases. 101(2020)535	中国の養豚場におけるブタインフルエンザA型ウイルスの感染状況に関する5年間の前向きコホート研究において、最初の2年間の結果を示した研究報告。養豚場ではインフルエンザA型ウイルスの有病率が非常に高く、SIVサブタイプの解析により、ブタインフルエンザAウイルスが、ブタと養豚場の労働者の間で種を越えて伝播することが確認された。
19	インフルエンザ	J Gen Virol. 102(2021)001529	D型インフルエンザウイルス(IDV)の病因及び人畜共通感染の可能性に関する従来の知見の要約及び考察に関する報告。IDVは、主にウシを宿主としており、ブタ、ウマ、ラクダ等を含む他の哺乳類種に対し伝播する可能性があると考えられているが、ヒトにおけるエビデミック及びパンデミックはこれまでに確認されていない。近年、ウシ及びブタにおけるIDVの集団発生は、世界的に増加し続けており、最近ではIDVがヒトに感染する可能性があることを示す証拠が増えてきている。
20	インフルエンザ	J Virol. 94(2020)24 e01453-20	米国では毎年夏に、農産物品評会に参加する若者が遺伝的に多様なインフルエンザA型ウイルスを保有する展示用のブタに接触し、人獣共通感染症を引き起こしていることが確認されている。ブタの展示会の時期をずらす等の対策をとることで、インフルエンザA型ウイルス保有ブタが減少し、人への伝播も減らせる可能性がある。
21	インフルエンザ	J Virol. 95(2021)2 e01066-20	アメリカにおけるブタ由来のインフルエンザウイルスに感染した2症例の報告。1例は感染前にブタとの接触歴があり、もう1例はブタとの接触歴はなかったことが明らかになっている。
22	インフルエンザ	WHOホームページ. <a href="https://www.who.int/csr/don/04-january-2021-influenza-a-brazil/en/">https://www.who.int/csr/don/04-january-2021-influenza-a-brazil/en/</a>	2020年12月15日時点、ブラジルのMinistry of Healthは、2020年2例目のインフルエンザA(H1N2)変異ウイルスのヒト感染例を報告した。本症例はParana state, Irati municipalityの豚肉処理場を兼ねた農場に住んでいる4歳の女兒であった。この症例はブラジル、Parana stateにおいて報告された3例目のインフルエンザA(H1N2)変異ウイルスのヒト感染症例である。
23	インフルエンザ	Zoonoses and public health. 67(2020)697-707	ガーナの養豚場のインフルエンザA型ウイルスの感染状況について、ブタ及び農家から採取したサンプルを分析し、調査を行った報告である。ヒトの検体からは、H3N2及びH1N1pdm09の亜型ウイルスが検出された。ウイルス陽性のブタの検体はすべてH1N1pdm09に分類され、調査期間中にヒトの間で流行したH1N1pdm09と系統的に密接に関連していた。農家の大多数が作業時にサージカルマスクを着用しておらず、手袋を着用していると回答した人もわずかであった。ほとんどの農家が、インフルエンザ様症状を発症した際に農場で作業をしていたことが明らかになっている。
24	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20210108.8084693	2020年12月22日、マドリッドのAlgetelにある中央獣医学研究所はラリオハの動物衛生地域研究所より、牛海綿状脳症(BSE)に感染している疑いのある神経組織サンプルを受け取った。イムノブロットングにより、非定型BSE(H型株)が確認された。このサンプルは、生後48カ月以上の動物を対象とした伝染性海綿状脳症サーベイランスプログラムで採取されたもので、当該種は、2003年4月20日に生まれた交雑種のウシであった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
25	レンサ球菌感染	Infection Genetics and Evolution. 87(2021)104674	レンサ球菌感染症において、タイの患者(2人)、罹患ブタ(4頭)及び無症候性ブタ(3頭)から分離された抗生物質耐性ブタレンサ球菌株の全ゲノム配列を、1186Sの既知のゲノムと比較した調査である。調査結果により、ヒトとブタの間に毒性のあるブタレンサ球菌の伝播が示唆された。
26	レンサ球菌感染	Outbreak News Today. <a href="http://outbreaknewstoday.com/thailand-reports-340-streptococcus-suis-">http://outbreaknewstoday.com/thailand-reports-340-streptococcus-suis-</a>	タイにおいて、豚連鎖球菌感染が認められた。2020年12月22日までに、12例の死亡を含む340例が報告されている。生の豚肉と血を用いた料理を食べることや適切な保護をせずに豚と密に接触することで発生しているとされている。
27	レンサ球菌感染	日本救急医学会雑誌. 30(2019)599	ブタ関連感染症に伴う脾臓低形成により死亡した37歳男性の症例報告。発熱、嘔吐及び下痢症状で搬送され、来院時はショックバイタルであった。血液培養検査からブタレンサ球菌が検出され、集学的治療を行ったが死亡した。脾臓体積は69cm <sup>3</sup> (日本人平均は120cm <sup>3</sup> )であった。男性はブタ内臓を処理する職についていたことがわかっている。
28	サルモネラ症	Int J Food Microbiol. 338(2021)108992	ブラジルのリオ・グランデ・ド・スル州で確認された非チフス性サルモネラ症について、産卵鶏、豚、ブロイラー及び七面鳥のサルモネラ血清型との関係性を調査した報告。サブタイピングモデル及びアウトブレイクの3つのサブ解析により、サルモネラ症が動物性及び非動物性食品に起因することが示唆された。同州におけるサルモネラ症の最も多い感染経路として、産卵鶏及びその卵が挙げられており、次に同州に隣接するサンタカタリーナ州で飼育されたブタが続いた。
29	ブルセラ症	BMJ Case Rep. 13(2020)e238216	米国南部で野生のブタの狩猟に参加し、神経性ブルセラ症を発症した患者の症例報告。当該患者は、セフトリアキソンナトリウム水和物静注、ドキシサイクリン塩酸塩及びリファンピシンが投与されたが、治療終了後も神経学的後遺症が継続していた。本報告は、高蔓延地域以外でも、潜行性で発症にいたる神経性ブルセラ症の可能性を疑い、診断を行う必要性を示唆している。
30	ブルセラ症	OIEホームページ. <a href="https://wahis.oie.int/#/report-info?reportId=35109">https://wahis.oie.int/#/report-info?reportId=35109</a>	OIE World Animal Health Information Systemから、フランスのヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に位置するSuhescunの農場で飼育されているブタ19頭が、ブルセラ症に感染したことが報告された。国立食品環境安全庁のMaisons-Alfort動物衛生研究所が間接酵素免疫測定法を実施し、2021年6月4日に陽性が確認された。発生源、感染源は、不明又は確定的ではない。
31	クロストリジウム感染	PLoS One. 15(2020)12e0244227	スウェーデンの養豚場で飼育されているブタとクロストリジウム・ディフィシルに感染したヒトとの間で、 <i>Clostridioides difficile</i> のPCRリボタイプ(RT)046が伝播している可能性を検出し、全ゲノム配列解析を用いてブタ集団におけるRT046の多様性を調査した報告。調査結果から、ヒトから分離された2株はブタから分離された株と近縁であり、伝播の可能性が示唆された。
32	エリジペロスリックス感染	The Pig Site. <a href="https://www.thepigsite.com/news/2021/01/rwanda-considers-targeted-vaccination-against-swine-">https://www.thepigsite.com/news/2021/01/rwanda-considers-targeted-vaccination-against-swine-</a>	ルワンダ政府は、感染性細菌感染症であるブタ丹毒(エリジペロスリックス症)が複数回発生したことを踏まえ、感染の影響を受けた養豚地区でのワクチン接種キャンペーンを検討している。ルワンダ農業家畜資源開発庁は、国内の3つの地区で350頭以上のブタが当該感染症により死亡したことを報告している。
33	回虫症	Open Forum Infectious Diseases. 7(2020)S721	米国中西部で検出されたヒト回虫症15例について評価したものである。当該症例には、ブタへの接触の可能性のある症例も含まれていた。近年、ヒトとブタの回虫の同種性が示されており、本報告はブタ由来の回虫による人畜共通感染症のリスクを示唆している。
34	旋毛虫症	Euro Surveill. 25(2020)24:1900527	2017年に、フランス及びセルビアにおいて約47例が旋毛虫に寄生された豚肉を摂取し、うち20例(フランスで9例、セルビアで11例)で旋毛虫症が報告された。ほとんどの医師が旋毛虫症に無知であることから診断が遅れ、顔面神経麻痺、肺塞栓症等の合併症が発生した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
35	旋毛虫症	ProMED-mail 20210510.8353825	アルゼンチン保健当局は、4月27日に報告された旋毛虫症の発生が、コルドバ州の住民に影響を及ぼしていることを報告した。同州内の保健センターからの情報によると、Toledo市の50例、Lozada市の23例、Rio Segundo市の27例及びCordoba市の19例の計119例の感染が報告されており、外来にて治療が継続されている。全ての患者がラベルのないchacinados(サラミ)を摂取していた。
36	ジアルジア症	Parasitol Int. 78(2020)102154	人獣共通感染症を引き起こすランブル鞭毛虫( <i>Giardia duodenalis</i> )について、韓国の養豚場のブタにおける有病率を調べ、遺伝子型の比較により宿主特異性を確認した報告である。 <i>Giardia duodenalis</i> のsmall subunit ribosomal RNA(ssu rRNA)集合体の配列解析では、Assemblage E、D、C及びAが同定された。Assemblage Aの配列(ssu rRNA;MK430919)は、韓国人個体から分離されたサンプルの配列と100%同一であり、人獣共通感染症の可能性が示唆された。